

第3学年 音楽科		指導者	東広島市立高屋西小学校 教諭 加藤 公一
日本の昔話の音楽づくり ～日本の音楽に親しもう～		学年組	第3学年3組
		児童数	31名
本校で育てる 資質・能力との 関連	課題発見・解決力、思考力・表現力、 積極性	場 所	音楽教室

1 題材について

【題材観】

本題材では、我が国に古くから伝わる音楽で使われている音階の中から、ラ・高いド・高いレの3つの音を使ったリコーダーによる音楽づくりの学習を展開する。ここでは、リズムや速度、音楽の仕組みを工夫し、まとまりのある音楽をつくることに重点をおく。これらの学習を通して音を音楽に構成する能力を育成する。小学校学習指導要領音楽（平成20年）の第3学年及び第4学年「A表現」（3）音楽づくりの指導事項イ、〔共通事項〕のうちリズム、速度、音の重なり、反復、問いと答え、音楽の縦と横の関係などを扱う。

音楽づくりの学習では、あらかじめ決められたリズムを基に、拍の流れを感じ取りながら個人で「日本の昔話」に合う旋律をつくる。さらに個人でつくった旋律をもとにグループでつなぎ、リズムを工夫したり、音楽の仕組みを工夫したりして、まとまりのある音楽をつくる。発展として、この題材でつくった音楽に和太鼓や当り鉦などでリズム伴奏を加えて演奏する。このことを通して、我が国の伝統音楽に対する関心を高めることが期待される。

【児童観】

本学級の児童は、第3学年の音楽づくり「手拍子でリズム」で、反復や変化を生かしたまとまりのあるリズムをつくる経験をしている。学習後のアンケートでは、97%の児童が「楽しかった」と答えている。また、これまで、それぞれの題材において「どんな音楽の仕組み（音楽のしかけ）の工夫」があるか学習している。事前調査では、「音楽を聴いたり楽譜を見たりして、『追いかけっこ（音楽の縦と横の関係）』『くり返し（反復）』『問いと答え』『合体（音の重なり、音楽の縦と横の関係）』など、『音楽のしかけ（音楽の仕組み）』の工夫を見付けることができますか」という質問に対し、77%の児童が「見付けることができる」と答えている。しかし、これらの工夫にどのような効果があるかについて、児童が十分に分かっているとは言えず、音楽を構成する要素の工夫とその効果の結び付きについては課題がある。

全員の児童が「リコーダーを演奏することは楽しい」と答え、中でも「とても楽しい」と答えた児童は94%であり、積極的に取り組んでいる。「授業で学習したリコーダーの曲を演奏することはできますか」という質問に対し、97%の児童が「簡単にできる」「できる」と答えている。タンギングや指使いは全員正確にできるが、リズムが正確でなかったり、演奏できるまでに時間を要したりする児童もいる。

グループで話し合い、工夫する学習については、97%の児童が楽しいと答えているが、授業での発表については、52%の児童が「あまり発表しない」「発表しない」と答えており、全体の場で活発に意見交流しながら深めることに課題がある。

【指導観】

指導に当たっては、導入時に元担任から届いた『日本の昔話』の読み聞かせをするため、『お話を聞きたくなるような素敵な音楽』をつくってほしい」という依頼を「日本の音階を使った音楽づくりのきっかけ」とする。そして、元担任からの依頼を本題材のゴールとして設定し、題材全体の学習計画を立てさせ、見通しをもたせる。学習過程における振り返りでは、自分たちはどこまでできているか、これから何をしていかなければならないかを明らかにし、解決していくことで、課題追究への意欲を持続させるようにする。

「日本の昔話」に合う音楽はどんな音楽か考える際、既習曲を楽譜と音で提示し、使われている音や曲の最後の音に着目して、整理・分析させることにより、「日本に古くから伝わる音階」に気付かせる。そして、気付いたことを基に、どうすれば「お話を聞きたくなるような素敵な音楽」になるのかを考えさせる。また、題材全体を通して、音楽を構成する要素の工夫とその効果の結び付きについて意識させ

るため、ワークシートを工夫し、既習事項を想起させたり、「リズム」や「速度」、「音楽の仕組み（音楽のしかけ）」の効果に着目した工夫を促したりする。さらに、聴き合いや振り返りを取り入れた音楽づくりの学習を通して、本題材のゴールを達成できたことを実感させるようにする。

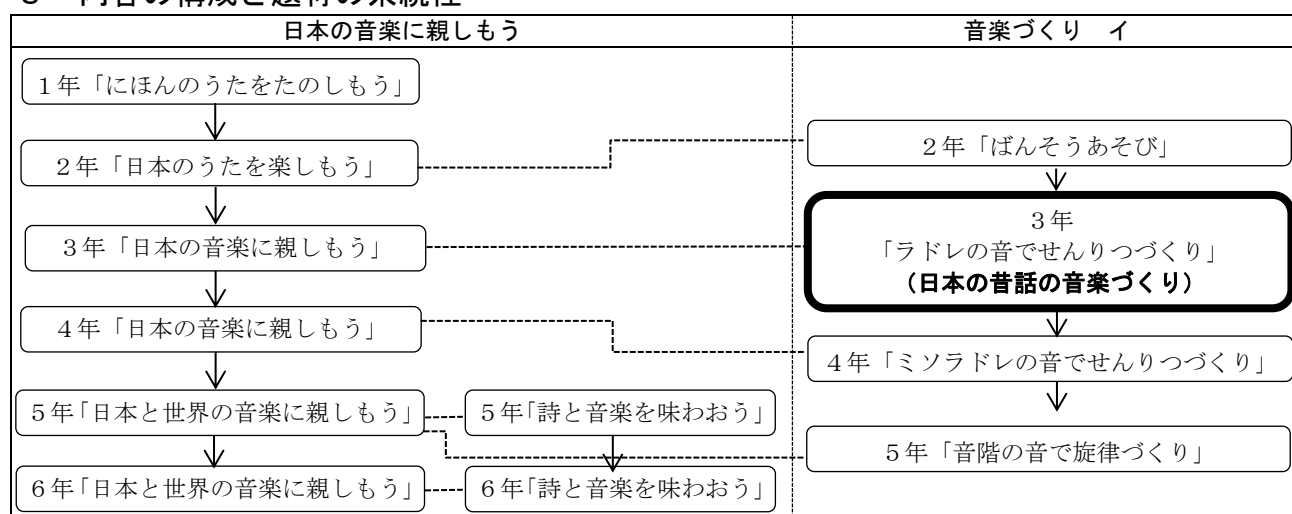
本題材の学習を通して、リズムや速度、反復、音の重なり、問いと答え、音楽の縦と横の関係などが生み出すよさや面白さについて、聴き合いや振り返りを取り入れることにより気付かせるとともに、他の題材の学習における表現及び鑑賞に生かすことができるようにしたい。

2 題材目標及び内容

リズムや速度、反復、音の重なり、問いと答え、音楽の縦と横の関係などの面白さを感じ取り、リズムや音楽の仕組みを工夫して思いや意図をもって日本の昔話の音楽をつくる。

「A表現」（3）音楽づくりの指導事項イ、〔共通事項〕のうちリズム、速度、反復、音の重なり、問いと答え、音楽の縦と横の関係などを扱う。【小学校学習指導要領音楽 第3学年 内容A（3）】

3 内容の構成と題材の系統性



4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
① 音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成していくことに興味・関心をもち、思いや意図をもって音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。	① 日本に古くから伝わる旋律の特徴を聴き取っている。 ② リズムや速度、音の重なり、反復、問いと答え、音楽の縦と横の関係などを聴き取り、それらの働きが生み出す面白さやよさを感じ取っている。 ③ 音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をして、どのように音楽をつくるかについて自分の考えや願い、意図をもっている。	① リズムや速度、反復、音の重なり、問いと答え、音楽の縦と横の関係などを生かし、音を音楽に構成している。

5 本校で育てる資質・能力との関連

課題発見・解決力	「お話を聞きたくなるよう素敵な日本の昔話に合う音楽」をつくりたいという願いをもち、計画を立て、課題を設定する。 課題をもとに、思いや意図をもって音楽をつくったり修正したりしながら目指す音楽に近付ける。
思考力・表現力	既習曲やつくった音楽を聴き、「日本の昔話に合う音楽」の特徴や音楽を特徴付ける要素の工夫やその効果に気付く。
積極性	目的意識をもって、進んで音楽を聴いたり、試行錯誤しながら音楽をつくったりする。 他者の考えや音楽のアイデアを取り入れ、工夫して音楽づくりをする。

6 指導計画 全7時（本時5／7）

次 時	過程	学 習 活 動	評 価				育てたい資質・能力との関連
			関	創	技	評価規準	
一	1 課題設定	出合い <もと担任からの依頼ビデオメッセージ> 3年3組のみなさん、こんにちは。「るるる白鳥」の「じゅげむ」ととても楽しかったよ。3年生になって、みんなますます元気にがんばっていますね。先生はうれしいです。 実は、今日はみなさんにお願いがあります。 「日本の昔話」の読み聞かせをしようと思っているのですが、昔話の世界に入っていけるように、3年3組のみなさんに、「日本の昔話」に合う音楽をつくってほしいです。みなさんをこれまで担任した高屋西小学校の先生、みんなからの願です。あまり長くなくてもいいので、「お話を聞きたくなるような素敵な音楽」ができあがるのを楽しみにしています。よろしくお願いします。 ・ビデオメッセージから分かったことをもとに、これから自分たちは何をすればよいのか、そのためにはどうすればいいのか考えを出し合う。 ・「日本の昔話」に合う音楽とは、どのような特徴をもった音楽なのか疑問をもつ。 願い・問い 「日本の昔話」に合う音楽をつくって、これまで担任してもらった先生にプレゼントしよう。 「日本の昔話」に合う音楽とはどんな音楽かな。	○			【関①】	課題発見・解決力
	2	課題① 3年生になって学習した曲から「日本の昔話」に合う音楽をさがし、その特徴を見付けよう。 ・3年になって学習した曲を聴いて分ける。 ・楽譜も調べる。		○		【創①】	思考力・表現力 積極性

		情報収集・整理分析	音楽を聴く - 既習曲の主旋律を聴き、「日本の昔話」に合うかどうかを調べ、まず自分で大まかに分類する。 考察 - 楽譜を参考にし、「日本の昔話」に合う音楽の共通点について考える。 - 楽譜を使って、調（西洋音楽ではハ長調）や階名を比較する。 結論① 「日本の昔話」に合う音楽は、 - 使っている音が少ない。 - 終わりの音が「ド」ではない。 「のんびりした感じ」と「さみしいような感じ」がするものがある。	音楽を聴くと分かるよ。 「日本の昔話」に合う音楽のひみつは何ですか。 「茶つみ」や「春の小川」は、昔の日本のことを歌っているから「日本の昔話」に合う音楽じゃないかな。 「日本の昔話」に合う音楽は、使っている音が少ないよ。 「日本の昔話」に合う音楽にはレで終わっている曲が多いよ。「茶つみ」や「春の小川」は合わないんじゃないかな。 「うさぎ」は他の「わらべうた」と感じが違うね。 「じゅげむ」で演奏した「出ばやし」のように音を選んでつくれば、「日本の昔話」に合う音楽はできるんだね。					
二	3	課題設定・表現	課題② 「ラドレ」の3音を使って、「日本の昔話」に合う2小節の旋律をつくろう。 課題③ 2小節の旋律をリズムや速さ、つながり順番を工夫してグループで1つの音楽をつくろう。 課題④ 「音楽のしかけ」を使って、「日本の昔話」に合う音楽をもっと素敵なものにしていこう。 課題② - 教科書に提示されたリズムでつくる。 - 終わりの音が「ラ」「ド」「レ」になる旋律をつくる。 - 演奏しにくい部分や不自然な部分は修正する。 - 気付いたことを交流し、次の課題を設定する。 結論② - 最後は、「レ」の音にすると終わった感じがする。 2小節では短すぎるので、「お話を聞きたくなるようなワクワクする音楽」にするには、グループでつないだらよさそうだ。	「日本の昔話」に合う旋律を一人一人つくりましょう。演奏してみてください。 旋律をつくることはできたけど、何だか一人では、短く、ものたりない感じがするな。 グループでつないだり合わせたりしたらおもしろくなりそうだね。	○			【関①】	課題発見・解決力 積極性
		まとめ							

4	表現				○	◎	◎	【関①】 【創②】 【技①】	課題発見・解決力 積極性
			課題③ ・「つながる感じ」「終わる感じ」を意識しながら、グループとしての音楽をつくる。 ・既習の学習「3つのメリーさんのひつじ」から、リズムや速度をかえると音楽の感じが変わることを思い出し、自分たちの音楽を見直し、工夫する。 ・2分音符を中心にした音楽と短い音符や付点8分音符と16分音符（タッカ）のリズムによる音楽を比較する。 	 一人一人つくった旋律をグループで工夫して表したい感じに合う音楽をつくりましょう。  4分音符の「メリーさんのひつじ」は行進するような音楽だったね。  短い音符は忙しい感じだったね。タッカのリズムが中心だと元気のいい感じの音楽だったよ。  もとの2分音符と4分音符の音楽にするのんびりした感じになっているね。					
	まとめ		結論③ ・はじめのリズムの音楽やテンポの遅い音楽は、のんびりした音楽に合いそうだ。 ・短い音符やタッカのリズムの音楽は、元気のいいにぎやかな感じの音楽にしたい時に合いそうだ。	 遅い曲はのんびりした感じがするね。速い曲は、忙しい感じがするね。  音楽をつないだりリズムやテンポを工夫したりして、昔話に合う音楽ができたよ。もう少しにぎやかでお話を聞きたい音楽にならないかな。					
5 本時	表現		課題④ ・「音楽のしかけ」について、既習の学習を想起し、どのようにすればよいか見通しをもつ。	 もっと素敵な音楽にするために、今まで学習した「音楽のしかけ」を使った工夫をしたいな。	○	◎	◎	【関①】 【創③】 【技①】	課題発見・解決力 積極性
6			<音楽の縦と横の関係（追いかっこ）の工夫>  <音の重なり、反復（合体：オスティナート）の工夫> 	 「音楽のしかけ」を使って、グループでつくった「日本の昔話」に合う音楽を自分たちの表したい感じに合った素敵な音楽になるよう工夫していきましょう。  「追いかっこ」の工夫をすると音が合わさって「にぎやかな日本の昔話」に合いそうだね。  「合体」の工夫をしたいけれど、どうしてもうまくいかないな。  「歌おう声高く」のように同じ旋律をくり返した伴奏にしたらどうかな。					

	まとめ	結論④ 1小節または、2小節ずつ交代して出たり（問いと答え）、ずれて出たり（追いかけてっこ）、2つの音楽を重ねたり（合体）する「音楽のしかけ」を使って工夫して演奏するとよい。					
7	整理分析	聴き合いによる交流 聴き合いをして、どんな「音楽のしかけ」を使って工夫しているか、どんな感じを表すのに効果的か交流しよう。 ・問いと答えを工夫すると、あちこちから音楽がきこえてくる感じがすると気付く。 ・追いかけてっこなど音の重なりを工夫すると、音が響いてにぎやかな感じの音楽になると気付く。 「音楽のしかけ」を使って工夫すると、音が重なったりやまびこのように響いたりしてにぎやかな音楽になる。	他のグループの音楽を聴いて、どんな音楽なのか、どんな工夫をしているか知りたいな。 「音楽のしかけ」を工夫をすると、どんな「日本の昔話」に合う音楽になっているか知りたいな。 聴き合いをして、それぞれのグループがどんな工夫をしているか、どんな感じを表すのに効果的か交流していきましょう。 「追いかけてっこ」の工夫をしているね。楽しそうにきこえるね。 音が合わさって響いてきれいだね。 同じ音のくり返しの伴奏でもきれいだね。 伴奏で音楽を盛り上げている感じがするね。 「音楽のしかけ」は、音が響いてにぎやかで素敵な音楽になるんだね。素敵な音楽ができたよ。先生たち、きっと喜んでくれるね。	○	【技①】	思考力・表現力	
	まとめ	「日本に昔から伝わる音階を使い、終わりの音に気を付ける」「音楽をつなぐ」「リズムや速度をかえる」「音楽のしかけを使う」と、日本の昔話に合った素敵な音楽になる。					
	実行	自分たちがつくった「日本の昔話」に合う音楽を録音してもと担任の先生たちにプレゼントしよう。					
	発展	自分たちがつくった音楽に和太鼓伴奏をつけよう。					

7 本時の目標

音の重なりや反復、問いと答え、音楽の縦と横の関係などを生かし、どのようにグループで「日本の昔話に合う音楽」をつくるか、それぞれが自分の考えや願いをもち、意見交流しながら工夫することができる。【音楽表現の創意工夫③、技①】[課題発見・解決力、積極性]

8 本時の展開（5/7 時間目）

学習学習	形態	指導上の留意事項 ★努力を要する状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
1 課題を確認する。	全体		
課題 「音楽のしかけ」を使って、グループでつくった音楽を「お話を聞きたくなるようなすてきな音楽」になるよう、もっと工夫しよう。			
2 「音楽のしかけ」について、既習事項を想起するとともに、どのように工夫すればよいか例を通して確認し、見通しをもつ。 ・「追いかけてっこ」は、1・2小節ずれて演奏する。 ・「合体、くり返し」は、2つの曲を組み合わせてたり、同じ音をくり返したりして重ねて演奏する。 ・「問いと答え」は、2つに分けて、同じ曲や違う曲を1・2小節ずつ交互に演奏する。	全体	・参考例としてつくられた曲を聴かせたり楽譜を提示したりすることにより、どのように工夫されているか確認する。 ・児童がどのように工夫すればよいか分かりにくい「問いと答え」「音の重なり（合体：パートナーソング、オスティナート）」については、掲示用の楽譜を示し、視覚面からも支援する。 ・「音楽のしかけ」を使うとどんな感じの音楽になるか、試したり、振り返ったりさせながらつくらせる。	
3 グループでどのような感じの音楽をつくりたいか、そのためにはどんな「音楽のしかけ」を取り入れるか決め、工夫する。 ・「追いかけてっこ（音楽の縦と横の関係）」1小節または2小節ずれて演奏する。 ・「合体（音の重なり、音楽の縦と横の関係）」2つの異なる曲を同時に演奏する。 ・「合体（音の重なり、反復）」主旋律に伴奏となる音をくり返して演奏する。（オスティナート） ・「問いと答え」1小節または2小節ごとに、同じ旋律または異なる旋律を交互に演奏する。	グループ	・「音楽のしかけ」を使って工夫させることにより、音とあらわしたい感じを振り返らせながら取り組ませる。 ・早くできたグループは、他の工夫に取り組ませる。 ★どのようにつくったらよいか分からないグループは、板書で例示したり、「どんな音楽のしかけ」を使うかについて声をかけたりしながらつくるようにし、見通しをもたせる。	音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をして、どのように音楽をつくるかについて自分の考えや願い、意図をもっている。【音楽表現の創意工夫③】（発言・表現）リズムや速度、反復、音の重なり、問いと答え、音楽の縦と横の関係などを生かし、音を音楽に構成している。【音楽表現の技能①】（表現）[課題発見・解決力、積極性]
4 自分たちのグループの状況を交流する。	全体		

それぞれできたところまでを聴き合い、工夫点とその効果に気づき、自分たちのグループの工夫の参考とする。		つまづいているグループについては、どうすればよいかのアイデアを学級全体で交流させ、見通しをもたせる。その際、ことばだけでなく、児童のアイデアをもとに音で試す機会を設定する。
4人に分かれて「追いかっこ」にしているので、「にぎやかなおまつりみたいな音楽」になっているね。 「歌おう声高く」のような「合体」を取り入れたいけれど、なかなかうまくいかないな。どうしたらいいのだろう。 4分音符3つの部分の音をくり返して合体したらどうかな。		
5 本時のまとめをする。		全体
まとめ 「問いと答え」や「合体（音の重なり：パートナーソング、くり返し：オスティナート）」は、自分たちがつくった音楽を途中で分けたり、一部分をくり返したりしてつくる。 「音楽のしかけ」を使って工夫すると、音が重なってにぎやかになったり、やまびこのように響いたりして、より素敵な音楽になる。		
6 次時の課題を確認し、本時の自分の取組を振り返る。		
「音楽のしかけ」を工夫して、グループの音楽を仕上げよう。		振り返りプリントに記入させる。

9 板書計画（黒板及びパソコンのモニター）

日本の昔話の音楽づくり

課題 「音楽のしかけ」を工夫して、グループでつくった音楽をもっと「お話を聞きたくなるようなワクワクするすてきな音楽」にしよう。

【追いかっこ 1小節ずれる】

ちがうリズムが重なってやまびこのようにひびいている。

【追いかっこ 2小節ずれる】

リズムがびったり重なってきれいだ。

まとめ 「音楽のしかけ」を使って工夫すると、音が重なったり、やまびこのようにひびいたりしてよりすてきな音楽になる。

- にぎやか
- 楽しそう
- ひびいている

3つの音をくり返して重ねてもきれいだ。

※パソコンのモニターにより提示する。

音楽のしかけ

「追いかけてっこ」

1小節または2小節ずつずれて入る。

「問いと答え」

1小節または2小節で交代してえんそうする。

「合体1」

2つの曲を同時にえんそうする。

「合体2」

短いせんりつをくり返してばんそうする。

方法・手順

- ① どの「音楽のしかけ」を使うか考える。
 - ・ 追いかけてっこ
 - ・ 問いと答え
 - ・ 合体1（2曲合体：「運動会の歌」がた）
 - ・ 合体2（ばんそうくり返し：「歌おう声高く」がた）
- ② ためして使う「音楽のしかけ」を決定する。
- ③ つくる。
 - ・ こまった時は、先生にたずねるだけでなく、学級全体に相談する。